



東次郎

芝口二丁目十五番地

上

3028



414  
A 1072



大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

清國ノ後ニ我國ト大ニ関係ヲ有  
スルノ國タルヲ以テ多年彼地ニ  
渡航セシメテ志願ノ処偶明治  
七年台湾ノ復起リ渡航ノ志  
願ヲ 閣下ニ畧陳シ上海ニ至  
リ已ニ北京ニ山々及テセシニ台  
湾事件ノ紛議解ケ故大久保  
大臣北京ヲ距リ上海ニ歸ルノ電  
報アルニワキノ遂ニ出テス上海

ヨリ歸國セリ其後彼地再航  
ノ都合ニ至ラス從ニ志願遷延セ  
レニ一昨明治十二年六月開拓使  
ノ内命ヲ得テ天津北京或ハ上海  
南京ニ至リ同十三年七月々々南北  
ニ往來シ實況ヲ經歷シ益ニ彼  
我ノ大ニ關係アルヲ信シ永ク彼  
地ニ滞在シ廣ク其人物ニ親ミ或ハ  
各港ノ商況地勢人情等ヲ視察  
シ我國萬一ノ裨益ヲ起サシム

希望シ客年七月歸國シテ志願  
ノ大畧(附記)ニテ開拓使へ申述シ  
永ク彼地ニ滞在ノ命ヲ得シマラ  
惣願セシニ當時都合アリテ再  
航ノ允許ヲ得ス開拓使ニ奉職ス  
ヘキ旨懇諭アリト雖も彼地渡航  
ノ念慮止ミ難ク遂ニ辭シテ客  
年九月御里ニ歸リ或ハ北海道ニ  
至リ往年懇親ノ者ニ多年ノ志  
願ヲ縷述シ懇談セシ処非常ノ

信義ヲ以テ資金壹萬圓ヲ調  
達シ、恒力スヘキ定約ニテ、小生一部  
分五千圓調達ノ儀、南部家家令  
ニ謀リ三千圓、當六月限東京  
ニ於テ調達シ二千圓、〓 郷里ニテ  
七月中、調達相成ルヘキ都合ニテ  
共計壹萬五千圓ヲ以テ上海ニ一、  
高業ヲ関中満志ケ年其實験  
ヲ経テ精算シ、漸次同志ヲ募リ  
加入セシメ、遂ニ彼地漢口ニ高店ヲ

設立シ、基本ヲ堅クシテ、追々天津  
ニ進ミ、高館ヲ建設シ、志願ノ端  
緒ヲ開ク筈ニテ、本年一月資金調  
達人ノ内、總代一人ヲ同伴シテ上海ニ  
至リ、品川総領事ニ懇談シ、上海  
廣業高會支配人鶴田幸吉ニ相  
談シ、及ヒ郷里ノ北郡海産物或ハ  
木材ヲ運輸シテ、其販賣ヲ依頼シ  
資金調達人ノ内一人宛、交番ニ出  
張セシメ、販賣ノ次序ヲ實驗シ

商業ノ事ハ彼等ニ一切総管セ  
シメ小生ハ彼地ノ實況ヲ調査ス  
ルニ往事スヘキ 結約畧相整ヒ  
客月廿九日上海ヨリ 東京ニ歸リシ  
処 豈圖シヤ 家令山本寛次良中風  
ニ罹リ 死去セシニワキ、小生一部分ノ  
金員調達ノ道ヲ失ヒ 種々苦慮  
相尽レ 數千円ノ調達ハ 御里ニテ  
補 欠スヘキ日途相立ツト 毎度三千  
円ハ 當地ニ於テ 抵當トスヘキ物ナク

何分信義上ニテハ 三千円ノ調達  
其日途不相立 且 當月ニ切迫シテ  
目的相違セルヲ以テ 諸端ノ豫算  
齟齬シ 不体裁ノ慮々有テ 困難  
ヲ 窮ルルニ至ル 依テ

尊慮ヲ 奉煩スル 誠 悲多罪ナ  
リト 毎度 往年ヨリ 度々 眷顧ヲ  
蒙ルニ 付 事情 甚々 露シテ 惘願  
ス 仰キ 願クハ 小生、 微衷ヲ 憐  
察シテ 滿一々 年 間 三千円ヲ 貸

與スルノ高庇ヲ岳レシテ此  
事業ヤ實ニ積年ノ熱心ニ出テ  
一朝ノ志ニ非スハ以テ國恩ノ  
萬一ニ報ヒハ以テ旧主ノ後圖ヲ  
為リレトス此レ恐ヲ顧ミス冒進レテ  
非常ノ憐救ヲ奉請スル所以也  
百 科 頭 首

明治十四年六月十九日

